

## 資料 2

**「災害情報ハブ」の目指す姿とスケジュールについて**

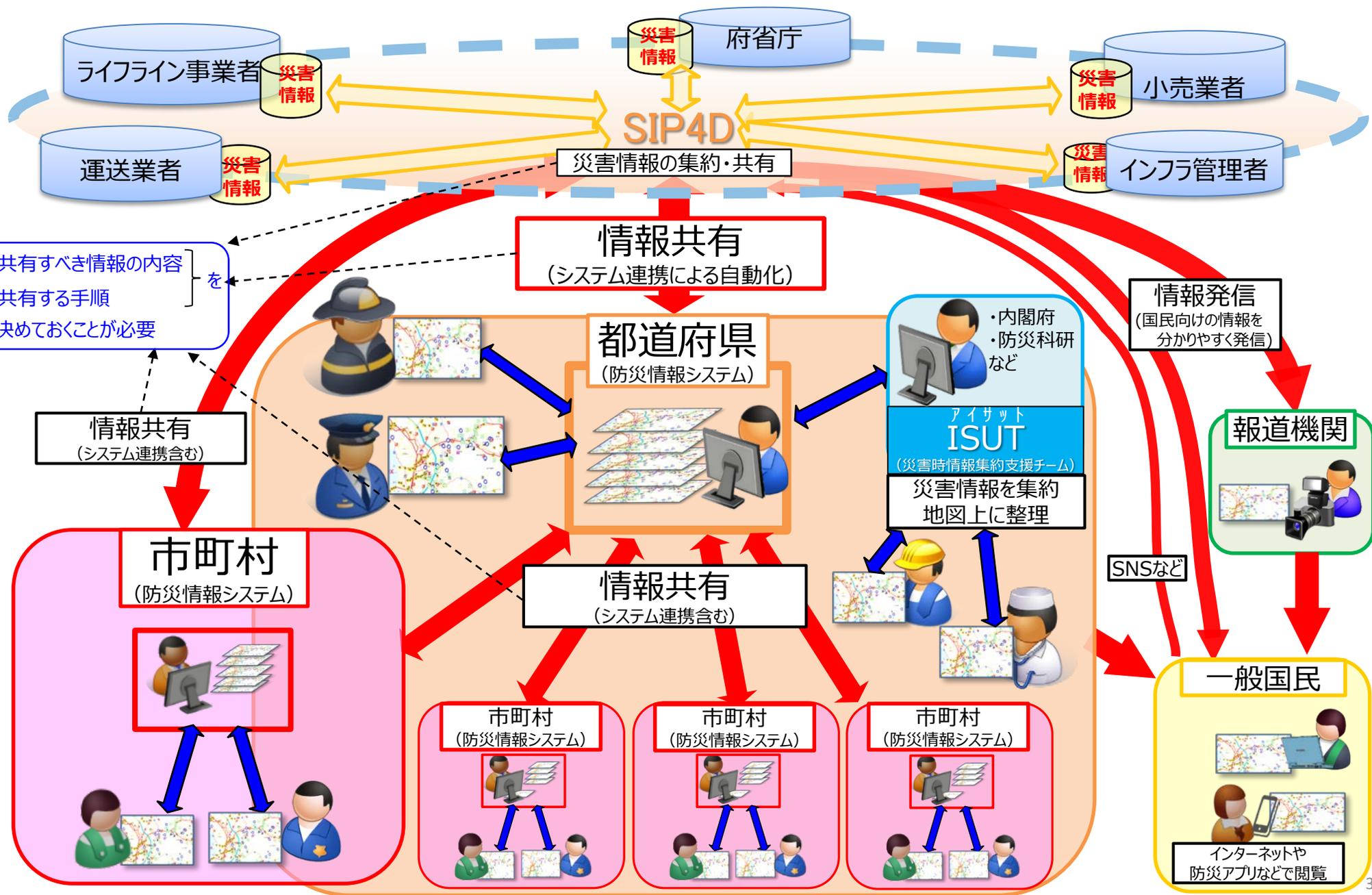
## 1. 「災害情報ハブ」の絵姿を示す必要があるのではないか

- 昨年度の「災害情報ハブ」では、基本的な考え方の共有や、最低限必要な情報共有に向けたルールの構築、必要な情報の整理等を行ってきた。
- 今年度からは、データでの情報共有・見える化の試行や災害現場での情報共有に向けたISUTの試行等に取り組むこととしており、様々な関係者との調整に基づく具体的な行動が必要になる。
- また、「災害情報ハブ」が目指すべき成果は、情報共有を通じた、各主体による効果的な災害対応の実現であり、そのためには、「災害情報ハブ」で構築した仕組みを各地域に波及させていかなければならない。
- このため、今年度からの検討・調整や、今後の各地域への波及の促進を図る観点から、「災害情報ハブ」の絵姿を示す必要があるのではないか。

## 2. 「災害情報ハブ」のスケジュール感を示す必要があるのではないか

- 「災害情報ハブ」では、スピード感を持ってできることから速やかに行っていくことを基本的考え方の1つとして取り組んでいる。
- 一方で、関係者の取り組みを促進し、より具体的な成果を上げていくためには、一定のスケジュールを示していく必要があるのではないか。

# 「災害情報ハブ」の目指す姿



### 【スケジュール（案）】

- 平成29年度 ・新たな情報共有・官民連携の考え方を共有・ルール化・基本的な枠組み構築
- 平成30年度 ・見える化の試行を通じた情報のデータ化、データ共有に向けた関係者調整  
・ISUT（官民チーム）試行を通じた災害現場での支援に係る課題の抽出・解消  
・モデル的な事例創出に向けた地域との調整
- 平成31年度 ・データ共有促進に向けた調整促進、現場支援の向上に向けた体制強化等  
・モデル的な事例創出に向けた地域との調整  
**→モデル事例の創出**
- 平成32年度以降 ・PDCAを回しつつ、モデル事例を波及、促進